

令和4年度第1回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和4年6月4日(土)10:00～12:00
- 開催場所 栗東市立図書館 小会議室
- 出席者 國松完二、吉川なおみ、田中覚、井上和子、園田純子、宗本和子、大屋邦代、辻村章子
- 事務局 教育部長、図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 2人
- 傍聴者 0人

概要

1、開会

市民憲章朗読

会長挨拶

2、協議事項

① 令和3年度事業報告・評価について

② 令和4年度事業予定について

③ その他

3、閉会

1、開会

(会長あいさつ)

昨年度、新しいメンバーになった直後の会議は、コロナのために書面開催でした。その時に確認した図書館の基本的運営方針に従って、この4月から5年間、図書館活動をしていただくこととなります。協議会としては、市民の立場で意見を述べ、図書館が発展していくようにしていけたらと思います。ぜひ活発にご意見を出していただけるようお願いします。

1、協議事項

① 令和3年度事業報告・評価について

(事務局)「令和3年度栗東市立図書館活動報告(速報版)」及び「令和3年度栗東市立図書館基本的運営方針に定める目標値に対する評価一覧(案)」について説明

(委員)自己評価を控え目につけておられると思いました。評価の元となる第一次方針は5

年前に策定したということですが、人口はどれくらい増えると想定して計画をたてられたのでしょうか。

守山市立図書館のことは、立派な図書館ができたことは聞いていましたが、それが栗東図書館の利用状況にも影響を及ぼすことは、ここで聞いて初めて知りました。

開館日ですが、土日の方が利用が多いということはないのでしょうか。土曜日にももう少し長く開館していただけると、市民としてはありがたいと思います。

また、栗東市への転入者に、図書館がありますよというPRはされていますでしょうか。

(事務局) 5年前の目標値ですが、人口7万人で大きな増減はないと見込みました。市民1人あたりの貸出冊数が、平成28年度で9.4冊ですが、目標として10冊を目指したいというところから、目標値を設定しております。

土日の利用は、おっしゃるとおり平日よりも多いです。開館時間の見直しも課題と考えています。

栗東市に転入された方への案内は、ここ2年、転入手続き時に窓口で図書館のパンフレットを渡していただいています。転入者以外でも、例えばおはなし会の案内なら保健センターに依頼するなど、様々な場所にパンフレットの設置をお願いしています。

(委員) 新規登録者数1,246人とありますが、この方たちはどういう方が新規登録者になっているのですか。

(事務局) 転入してきた方ももちろんいらっしゃいますし、ずっと栗東に住んでいたけれど図書館を使ったことがなかったという方もいらっしゃいます。

(委員) 年齢はどうか。

(事務局) 統計としては年齢別というのは出ないのですが、体感としては、若い方や子どもが多いという印象はあります。

(委員) 小学校一年生を全員登録するようなことは、していないのでしょうか。

(事務局) 小学校から見学などで来館される時には、基本、カードを作っていただくようにしています。小学校一年生に対しては、おはなし会を全校に巡回で行かせていただいているので、その時に、図書館の案内とカードの申込書をお渡しして、ご家庭から図書館に来てカードを作っていただけるようにご案内しています。

(委員) そうなると、親が申込書を持ってきて初めて登録ということになります。例えば、学校に申込書を出したら後でカードが届くというように、学校でカードを作る試みを行うのはどうでしょうか。子どもだけで図書館に来ることはあまりないかもしれませんが、カードがあることで、子どもも親も少し図書館に来やすくなるのではないかと思います。

それから、転入者の話がありましたが、企業向けにパンフレットを作ってみるのはどうでしょうか。在勤の方へのアピールはPRの隙間になっているところかと思えますので、在勤の方がカードを作れるということや、図書館の開館時間などをPRして

はどうかと思います。

(事務局) 小学生に対しては、以前は移動図書館で学校を回っていたので、ほぼカードを作ることができていました。移動図書館の運行を中止した後は、小学生のカード登録が確かに課題になっています。おはなし会でのご案内などはしていますが、やはりそれだけでは来館のハードルを高く感じる子どももいるかと思いますが、ご提案いただいたような方法が可能であれば、ハードルが下がるかなと思います。

(会長) 他の市町村で、一年生全員にカードを作った時、子どもが親に「カードを勝手に作った」と怒られたというような話を聞いたことがあります。基本的には、各家庭で判断する方がいいのではないかと思います。

栗東だと、一年生だけで人数はどれくらいになりますか。

(事務局) 800人くらいです。小学校入学前にカードを作られている方もいらっしゃいますので、800人全員が新規登録になるわけではありませんが、入学前にカードを作っている方の人数も、以前に比べると減っていると感じています。

(会長) 以前はコンスタントに2,000人くらいの新規登録がありましたが、今は半分くらいになってしまっているのので、先ほど話に出た企業向けPRをはじめ、いろいろなところに向けて、手を変え品を変えPRしていくことが必要なのかなと思います。

(事務局) 小さなことからでも、少しずつ進めていきたいと思います。

(委員) カードを一年生に勧めるのはとても良い案だと思います。経費がかかるので可能かどうかわかりませんが、子ども向けに、子どもが「これを持ちたい」と思えるようなデザインのカードがあると、カードが欲しいからカードを作って、カードを持っているから図書館に行こうという流れができるかと思います。

それから、広報りっとうの中に図書館の案内も載っていますが、各コミセンのコミセンだよりも、図書館の案内の文章や、例えば今でしたら夏休み前ですので、絵本の紹介などを入れていただけたら、もっと皆さんの目に触れるのではないかと思います。

(事務局) コミセンだよりもそういったスペースをいただけるのであれば、図書館としても非常にありがたいです。

カードについては、くりちゃんのイラストの入った現在のカードが、ありがたいことに、子どもたちに非常に人気があります。貸出カード以外にも、めるへんさんがおはなし会で配られているような出席カードを、図書館のおはなし会でも作成してはどうかというような検討もしております、できることを少しずつ取り組んでいきたいと思います。

(委員) 先日、初めて読みたい本をスマホで予約しました。予約本が用意できた時に連絡がきて、少し空いた時間にさっと借りにいけるのは本当に便利だと思いました。

先程、企業へのPRの話が出ましたが、働いている方は本当にお忙しい、でも、忙しいけれど本を読みたいと思っている方もいらっしゃると思います。事業所にPRす

る時に、予約サービスでこういうこともできるんですよという情報を伝えていくのも良いかと思えます。

忙しい方は、開館時間の点でも利用がなかなか難しいとは思いますが、「自分は仕事で遅いけれど、この時間なら予約本は借りられる」というような窓口があれば、本を読みたいと思う人の気持ちに、もう少し寄り添えるのかなと感じます。

(事務局) 予約サービスは、現在唯一、数値的に増えているサービスです。全ての年代の方がスマホを手にするようになったので、スマホからの予約が非常に増えたとは感じています。開館時間が6時までなので利用が難しいという点は課題と考えていましたが、予約については皆さんが既に使われているような印象でしたので、今、お話をお聞きして、まだ思ったほどは使われていない、もっとPRが必要なのかなという風に思いました。

(会長) 高齢者もスマホの所有率は高いし、仕事ではみんな使っています。ただ、今は二次元コードをスキャンして使うのが主流かと思えますので、図書館のシステムはその流れに遅れているように感じます。

予約本の受渡しでも、駅前の宅急便ロッカーのような受渡し可能なシステムを導入すれば、夜遅くても借りられます。そういったことを、図書館でも考えていかななくてはならないのではないかと思います。

(事務局) 今のシステムは令和8年度まで続きますので、現在可能なことはできる限りPRしていき、新システムの導入時には、技術は日進月歩で変わっていくものかと思えますので、情報収集を怠らずに取り組んでいきたいと思えます。

(委員) 今のシステムは令和8年度までということですが、レシートに、例えば今年度借りた冊数が出ると、目標冊数を自分で決めたり、こんなにたくさん借りたんだと盛り上がったたり、特に子どもには効果があるのではないかと思います。

(委員) 以前に、子どもに向けて、自分が読んだ本の厚さを足して行って、自分の身長を超えたら目標達成、という取り組みを行ったことがあります。積み上げた時に自分の身長より高くなるほどの本を読めるってすごいことだと子どもにアピールできたかと思えます。

(事務局) 子どもに説明する時に、図書館の蔵書冊数を山の高さと比べることは行っていますが、個人の読んだ冊数でということは考えたことがありませんでした。面白そうではありますので、機会を見て利用者の皆様に紹介できたらと思えます。

(委員) 学校でもすぐに取り組みそうな案がたくさんあるなと思いつながらお話を聞いていました。学校では、小学校一年生から1人1台タブレットを持つようになっていきました。その中に入っている学習ソフトでは、ページをクリアするとメダルがもらえるようになっていて、子どもとの会話の中で、獲得したメダルの個数を誇るような声を聴きました。数値目標は子どもにとってひとつのきっかけになると感じています。学校

でもそういった取り組みができたらと思います。

また、最近では電子書籍もありますが、紙の本が持つ良さもかけがえのないもので、そこを上手に子どもたちに伝えていきたいと思っています。

それから、以前は移動図書館が学校を回っていましたが、子どもたちに非常に人気で、帰りの会を終わるのを急かされた記憶があります。やはり子どもたちは、本を読みたい、次はあれを借りたい、という欲求をたくさん持っていると思いますので、何か考えていけたらなというふうに思っているところです。

(委員) 昔、本を1冊読んだら台紙にひとつ赤いシールを貼る「りんごの木」という取り組みや、目指せ1,000ページという取り組みがあったことを思い出しました。

今、いろいろお話があった中で、本を読みたい、カードを作った、そのあとで、大人は自分の意思で図書館に来られますけれど、子どもはどうやって来るのだろうということを考えました。保護者の方の理解がないとここまで来られないわけですし、その辺りをどうしたらいいのかなと。バスを利用する場合、東部住宅で降りて、ここまで歩かないといけない。以前にくりちゃんバスのアンケートに、図書館までのバスがほしいと意見を書いたのですが、帝産バスに乗り換えてくださいという回答でした。それから、土日はくりちゃんバス自体がありません。土日の方が子どもたちも来やすいと思いますが、アクセスがないのは残念だと思います。

それから、土日の開館時間が5時までですが、夏ですと5時は暑くて、今日はもう図書館に行くのは止めておこうかなと思ってしまうこともあるので、その辺りに何か工夫はできないかなと思いました。

(会長) 評価一覧の外部評価は、どのように作成しますか。

(事務局) この場で皆さんからいただいた意見をもとに作成したいと思っていましたが、今、いただいたご意見から評価欄を埋めるのは難しいかと思われますので、会長、副会長とご相談させていただいて整理できたらと思っています。

(会長) 図書館協議会の結果は公表されますし、教育長や市長も目にされることがあるかと思いますが、職員が頑張っているのはわかりますけれど、図書館はこの程度でいいのだと思われても困るので、その辺りを踏まえて外部評価をしたいと思っています。他所の評価では、何故貸出がどんどん減り続けるのだというような、かなり厳しい意見も出ます。そういう図書館に対する素朴な思いはちゃんと出しておいた方がいいのではないかと考えています。一度副会長と相談して案を作らせてもらって、皆さんに意見を募るといった形にさせてもらおうと思うのですが、それでよろしいですか。

(事務局) ありがとうございます。お願いします。

② 令和4年度事業予定について

(事務局) 「令和4年度事業予定」について説明

(委員) 自分が図書館を使うにあたり、めるへんさんが絵本に要約を書いてくださるコーナーが、とてもありがたいと感じています。設置場所が奥の方に行ってしまうと残念です。ぜひあのコーナーをもっと充実してほしいと、何人かの知人からも聞いています。それから、6月に季節の花が載った絵本を探しに来たら、書庫に入っていた。季節ごとの絵本を前に出してほしいという話が、知人との会話の中で出てきました。守山図書館の新館が出来て貸出が減っているという話があり、それには立地の問題もあるのですが、立地が悪くても、どうしても行ってみたいと思えるようなプラスアルファがあれば、状況が変わってくるかと思います。司書の方は大変だと思うのですが、皆さんが本を手にとりやすいコーナーが増えるとありがたいなと思います。

(事務局) 今は絵本のことをおっしゃっていただきましたが、皆さんに本を手にとってもらうための展示は、栗東図書館が力を入れて取り組んできたところです。今はいろいろな図書館でも取り組みが進みましたが、比較的早い時期から、季節に合わせたものなど、細かな展示を行ってきたという、ある意味自負を持っています。ただ、長く続けることによってマンネリになってくる、去年と同じものと思っただけで展示をすると本の見落としが発生してくる、というのは危ないところだと、今、お話を聞いて感じましたので、毎年丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

(委員) 本の並べ方なのですが、開館以来ずっと、本棚の、本を置いた上の隙間に横向きに置くような置き方はしないと聞いていたのですが、最近、その置き方が目立つように感じます。

(事務局) 開架室に置いている冊数は変えていないのですが、貸出に出ている冊数が減ったので、棚からあふれる本が発生してしまった状態です。コロナ禍の中でもありましたので、また貸出が戻ることを期待していましたが、見直して、丁寧にやっていきたいと思っています。

(委員) 絵本を紹介するときに、1冊しかない本が書庫に入っているケースがかなりあります。書庫に入ってしまうと検索しない限り借りられませんし、子どもが検索してその本を求めてくることは、あまりないかと思います。そういった本を、「書庫に入っていた良い本コーナー」のような形で出すことも、書庫の本に目を当てたり、回転させたりする意味では良いのではないかと思います。

(事務局) 開館して36年が経過し、良い本を全て開架室に置いておくことは、キャパシティの問題で無理になっています。良い本は、ただ置いておくだけでは案外借りられないこともあります。最近特に、保護者の方が古い絵本を敬遠されるようなケースもあります。それをどう子どもに手にとってもらうかを考えるのが、私たちの役割だと思っています。置いておくだけでなく、直接紹介して手渡したり、本にコメントを付したり、そういった形で、良い本を長く手渡していくことに、書庫の本も含めて、取り組んでいきたいと思っています。

(委員) 自分の孫が図書館から借りてきた本を見せてくれるのですが、その中には、古い本

がたくさんあります。私たちにとっては古い本でも、その子にとっては初めての出会いで、初めての本です。西館でロングセラーの児童書の買替があるというのは、やはり、古い新しいではなく、見た目が綺麗であれば、借りてくれるということなのではないかと思います。

(事務局) 確かに、ロングセラーの本については、傷むことで借りられなくなっていくという側面もありますので、買替を行っています。館内にはロングセラー絵本コーナーも作っており、出版が古い本も大事に手渡していきたいと思っておりますので、おっしゃるように、出版が古くても、その子にとっては新しい本なのだということを、上手に伝えていきたいと思っております。

(委員) 事業予定については、本当にいろいろなイベントを考えられていると思います。利用者として、楽しく利用させていただいています。

自分が小学生の頃は、図書館に行くより学校の図書館を利用することが多く、中学高校になると学校図書館はほとんど利用していなかった記憶があります。今の小学生は、学校図書館と図書館、どちらを利用されているのかなど、学校と図書館の関わりを知りたいと思います。

(事務局) 今、図書館の職員1名が学校図書館と兼務で辞令をいただいています。平成28年度から学校図書館リニューアルとして本の整理などを行い、それが終わったあとは、学校司書2名と学校図書館をどのように運営していくか、定期的に会議を行っています。図書館、学校図書館という区分ではなく、栗東の子どもたちに本を手渡すのだという視点で、学校図書館がよく使われるようになった分、図書館の利用が減るのなら、それでも構わないというくらいの気持ちで取り組んでいます。

(会長) 栗東市の学校司書は、小学校中学校あわせて12校に対して、2人です。滋賀県内で見ると、学校図書館が一番利用されているのは高校で、それは、司書が配置されているからです。学校図書館のことは、栗東はもう少し頑張ってもらわないといけないと思います。子どもが一番長く過ごすのは学校なので、そこで身近に図書館を使ってもらうのが一番いいのかなと思います。

(委員) 学校図書館リニューアル後も、学校司書さんに、子どもが手に取りやすい状態になるよう本を整理していただけているので、学校としては非常にありがたいと思っています。コロナ禍の中で図書室の利用が制限されることもあったのですが、今は状況を見ながら活用しています。図書室が綺麗な状態になっていることで、本を読みたい、読もうと思う裾野が広がっているように感じます。

(会長) 令和4年度の事業は、これから本格的に動き始めます。コロナの影響で、開館は以前通りになっても、事業は制約を受けたままということですので、少しずつでも元に戻るような形で取り組んでもらえればと思います。

③その他

(事務局) その他配布資料についての説明

(委員) 草津市在住の友人から、栗東の図書館は西館だけだと思っていたという話を聞きました。電車に乗って使うのが利用しやすいので、草津の図書館も南館を利用しているそうです。そんな方もいらっしゃいました。

先程、カードを小学生全員に作ってはどうかという話がありましたが、市内には外国籍の方もいらっしゃいます。外国籍の子たちと図書館との関わりはどうか。それから、書庫というのは、もう古くなって使われなくなった本と、傷んだら困る本が入っているのだと思っていました。だから今までは、書庫の本を出してもらおうということはしていなかったのですが、違うのですね。

(事務局) 外国籍の子どもさんは、小学校から見学に来られた時などにはお会いしますが、ご家庭から来られるというのは非常に少ないです。個人的に機会があつて、図書館のアピールをしたこともあります。来館には結びついていません。手渡したい子どもたちとなかなか繋がれていないというのは感じているところですので、細々とではあつても、何かできることを、丁寧にやっていきたいと思っています。

書庫の本もぜひご利用ください。

(委員) 移動販売で、軽のワゴンを使って山間部を回っているというニュースを見かけました。移動図書館でも、もっと規模を小さくして実施して、少しでも利用の足掛かりにできればよいのではないかなと思います。

(会長) 東近江市は、最近、移動図書館を軽自動車タイプの車に変えられました。近江八幡市は、ふるさと納税のお金を移動図書館にあてられました。

軽自動車タイプなら比較的安く作れるので、合併して広くなった自治体で、移動図書館を始めるところは多くなっています。

(事務局) 以前の大きい車は非常に運転が難しかったのですが、サイズが小さければ職員誰もが運転できて、山間部含めいろいろな場所に行けますので、小さいサイズの車があればいいなと思っています。

(事務局) 近江八幡市のふるさと納税の話もありましたが、クラウドファンディングで寄付金を募ったりなどもございますので、いろいろなことを含めて検討の俎上に乗せていきたいと思っています。

3、閉会

(部長あいさつ)

今日は、たくさんの貴重なご意見いただき、ありがとうございます。

図書館は、この4月から、皆様にも策定にご尽力いただいた基本的運営方針をもって、この運営を進めているところです。まだまだ開館時間や開館日、新システム導入など、課題はご

ざいますが、市民の皆様、特に子どもたちが、自由に本を選べる環境を整え、図書館や本に興味を持てるような機会をふやしていきたいと思いますので、協議会の皆様にもご協力をお願いいたします。

次回

令和5年2月18日（土曜日）午前10時から 本館小会議室